

令和元年度 西伊豆町教育委員会第7回定例会

- 1 開催日 令和元年10月16日（水） 9:00 ～ 10:00
- 2 場 所 西伊豆町中央公民館 1階 講義室
- 3 出席者 清野裕章教育長・山本久美子委員（職務代理）・鈴木秀輝委員・
森本仁子委員・眞野有吏委員
[事務局 高木光一]
- 4 欠席者
- 5 傍聴者 なし

教 育 長:本日の出席者は5名です。過半数に達していますので、ただ今から令和元年度第7回の定例会を開催いたします。まず、議事録の承認についてですが、令和元年9月18日の令和元年度第6回定例会の議事録については、私と森本仁子委員が確認し署名いたしましたので、ご承認いただいてもよろしいでしょうか。

（委員:全員異議なし）

教 育 長:今回の議事録署名委員ですが、山本久美子委員にお願いしたいと思います
が、よろしいでしょうか。

（山本委員:了解）

教 育 長:それでは、日程3の協議「令和2年度教育委員会関連事業について」を議題と
します。それでは事務局から説明をお願いします。

高 木:日程3の協議「令和2年度教育委員会関連事業について」をご覧いただき
たいと思います。こちらは、令和2年度の教育委員会関連の予算措置に対しまし
て、皆様からご意見やご要望等をいただき、予算要望の参考にさせていただ
きたいものであります。参考といたしまして、今年度の当町の教育委員会関
係予算の主なものを付けさせていただきます。こちらを参考にしてい
ただき、皆さまからご意見をいただければというふうに思います。よろしくお
願いいたします。今年度実施している事業について、これをもっと拡充した方
がいいのではないかと、新たなこんな事業をやった方がいいのではない
かと、これはもう少し見直しをかけた方がいいのではないかとかというよう
なご意見をいただければと思っております。

鈴木委員:町内留学というのは、どこでやっているのか。学校を使ってやっているのか。

教 育 長:町内留学というのは、旧田子中学校の校舎を使ってやっております。

鈴木委員:今、田子中学校の校舎はどうなっているのか。

教 育 長:1階が一部マナで使っておりまして、2階が郷土資料館、3階が宿泊施設にな
っています。宿泊施設は大学生、主にライフセーバーが使っています。

鈴木委員:食事は。調理室があるのか。

教 育 長:旧中学校なので調理室があります。キャンプの時には ALT の出身地の郷土
料理を作るというコーナーを設けて、調理室で作っております。

高 木:今までCIRが内容検討して、ALTと相談してやったんですけど、今度CIRが変わりましたので、現在内容を検討しながら進めているところであります。こんなことがいいのではないかと皆さんの意見をいただければ、CIRにも情報提供させていただきたいと思います。1点、予算編成でよろしいですか。2年度の予算編成方針についての町長から指示が出ております。その中で教育委員会関係のところを少し読み上げさせていただきたいと思います。3点ほど町長から指示が出ております。高校生の通学補助など思ったほど経費がかからなかったものは、できる限り見直しをして、子育てや教育にかかる負担を少なくするよう検討してくださいという事が1点。それから近年Z会や天神などを活用し、学校独自の特色が出てきており、学力向上に寄与すると思うが、他の学校でも取り入れることによって、子ども達の学力が向上するのであれば、多少予算がかかっても各学校で取り入れておこなって欲しいと思います。田舎だから学力が低下してしまうのではないではなく、少人数だからこそ他にはできない教育をしてほしいと思います。これは学力のみではなく、生きる力を含めてです。最後になりますが、令和2年度から小学校5・6年生で英語が必修になります。今までALTがおりましたので、西伊豆町は他市町より先行していますが、いるからと言って英語にふれる機会があるという次元ではなくとも思います。小学校教員と連携し、しっかりと英語としての授業ができるようにしてください。なお、教員はあくまでも県の職員ですので、何かありましたら県教委に行きますので言ってください。また、教員の英語が授業にならないのであれば、その方だけではない方に教えてもらうことも考えた方がいいかもしれません。日本人の話す英語で勉強しても発音などが違い、話せなくて結局やり直しでは意味がありませんというような町長のコメントをいただいております。これに沿って教育委員会としても予算編成をやってくださいとの事です。事務局としてはこれに沿った形で検討はしたいとは思っていますが、皆さんからも広く意見をいただきながら、参考にしたいと思います。英語やプログラミング教育で何かありませんか。

教 育 長:では、31年度の主要施策、その中で間伐材を利用する促進事業関係、児童に間伐材を利用した机と椅子を寄贈という事でやっております。今、中学校2年生まではこの机と椅子を使っています。中学校で使うというのは小学校で1年2年使っただけではもったいないというような話も出たために中学校でも使っていますけれども、このサイクルを変えてですね、中学校は元の金属製の椅子、机に戻すという事で考えています。どうしても、体に合わなくなってくるという事も一部出てきます。小学校6年間については、これまで通り進めていきたいというふうに考えています。

高 木:間伐材の利用促進という事業の位置付けとして始めましたけども、実際子ども達も少なくなってきた、間伐の本数自体もそんなに多くはないです。子ども達の1人当たりの机と椅子を作るのに5、6万くらいかかります。少なくなれば、なるだけまた1台当たりの単価が上がってくるかなというふうに思っています。

これをずっと継続するかどうかという事も今後は検討する必要があるかなと事務局でも思っています。統合後、令和 6 年の一貫校の時にこれを使うかどうかというのを見据えながら事業の実施も考えなきゃいけないかなと思っています。

鈴木委員:卒業したら、生徒に持たせるっていう話だったが、実際に生徒は持って帰るかどうか。

高 木:そうですね。わからないですけども、持って帰っていただけない可能性もあるかと思います。

眞野委員:そうすると、処分しなきゃならないという事か。

高 木:処分か町民の方にお譲りするか、学校でも今、机を使って物を置く台に使っておりますので、その辺で使っていただく事ができるのか、その辺は検討にはなってきます。

山本委員:断捨離の時代であまり物をもらって嬉しくない。

高 木:そういうこともあって、ほんとにこれを作り続けることが良いのかということもあるんです。

鈴木委員:木の良さっていうのは、修理してずっと使える良さがあるんだから、作ったのはならば持たせてというよりも学校でもっと綺麗に天板を張り替えるなり、削るなりして利用するという手もまだ金銭的な面も含めていいのかなと。

高 木:前の町長が寄贈という事でやりましたけども、寄贈ではなく残すという事でメンテナンスをやりながらってことも、1つは考えられるかとは思いますが。その辺は保護者の方とも相談しながらになると思います。

山本委員:何年くらい持つんでしょうね。

高 木:専門家がいらっしゃいますので。

眞野委員:やはり体が大きくなって寄りかかったりすると糊とか切れてくるので、中学生とか小学生の高学年になると、壊れてくる頻度が多くなってくる。机の上に乗って遊んだりすると。

高 木:最初作った子たちが5年、6年使うようになります。小学生の期間だけ使えば、それで終了でよいのではないかなと思ってはいますが。先ほど言ったようにメンテナンスをしながら、寄贈しないやり方に切り替えていくこともひとつかとは思いますが。

眞野委員:だけど、持ち帰らないと残って。

高 木:その辺も見ながら先ほど鈴木委員がおっしゃったように寄贈じゃない形も考えなきゃいけないかなとは思ってます。

眞野委員:やっぱり大きくなってくると、小さいですもんね。やっぱり机自体が中学生を見ると小さいですもんね。

高 木:今も使っていない子が何人かいます。

教 育 長:1番から8番までありますけれども、そちらの資料を見て頂ければ。特にご意見ないようでしたら、その下の不登校対策事業ここには2点ほどあります。次に国際教育の推進。これには6点あります。3点目の静岡大学共同研究、

ちょうど今日静岡大学の先生とゼミ生が仁科の方に宿泊していきまして、明日西伊豆中で研修会をおこないます。

鈴木委員:町民向け中国語講座の参加率とかどんな状況なんだろうかな。

高 木:今回は 10 人ぐらいだったと思います。イーフィの時にやってた人たちが申し込んだかどうか分からないんですけども、継続してやっていきたいと思います。

鈴木委員:観光地という事で観光業の人もいるのか。

高 木:詳しくは分かりませんが、いらっしゃるのではないかと思います。

鈴木委員:これはランクというか、目指しているところはどれくらいのところにありますか。

高 木:初心者向けの形でやっていますが、これから先もっと高いニーズが来れば CIR の方が講座を増やしていくという事も検討できるかなと思います。

山本委員:比較できないでしょうけども、西伊豆は結構 ALT が多いじゃないですか。他と比べて子ども達はどうなのかというのはあるのですか。この前、テレビで西伊豆が取り上げられていて私は見なかったのですがどうなのでしょうね。

教 育 長:抵抗が無くなる。それはあると思います。

高 木:小さいころから外国人が身近にすることで、英会話や外国人に対する抵抗感がなくなることは大きな成果ではないかと思っています。

教 育 長:小学校の英語の研修の授業に行ってみると、子ども達はカタカナ英語ではなくて、ネイティブに近い英語、流暢な英語を話します。耳で聞いて身に付ける学習の効果だと思います。

高 木:子どもの数に比べALTの人数が多いので、ALTに触れる機会は間違いなく他の市町より多いと思います。

教 育 長:日常生活の中で外国人と触れ合う機会は、西伊豆町はどちらかと言えば少ないのかもしれませんが、学校教育の割合は他より多いじゃないかと思ってます。ただ、ALT というのは浜松辺りにある人材派遣会社から供給されていたけれども、当町の場合には JET プログラムで ALT を入れています。人材派遣会社だと授業がマニュアルで作られていまして、こちらの方はそのマニュアルがないというような事で手探り状態で始めて、静岡大学との共同研究が始まったわけです。ところが、共同研究が始まった途端に小学校に英語が入って来て、これは大変だという事で小学校の先生が自信をもって英語を教えられるようにという方向へとシフトして、静岡大学との共同研究についてはやりたいことを一旦置いているという段階です。今は小学校でも自信をもってやれる先生が増えてきておりますので、今後は授業者と ALT との絡みを本格的に研究をしていきたいと考えています。

森本委員:英語塾とALTだとまったく違う問題だと思うのですが、私たちも子どもがいるんですが中学に入ってすぐに英語をやるとついて行くのに苦むと思ひ、6年生になると学習塾に入って、ある程度やっています。そうやって5年とか6年のうちに下準備をとという形をみんなとっているのですけども、それがもう

よっと充実してくれれば。

教 育 長:塾では、当たりはずれが出て来るとは思います。ただ英語に触れる時間が長ければ長いほど、やっぱり効果が出るっていうのもありますね。

森本委員:早いうちにやっておけば、聞き慣れておけば、全然違うと思う。

高 木:教育費で負担にならないように、教育長がおっしゃったように小学校の先生方も英語を自信をもって教えられるように頑張っています。

鈴木委員:受験技術なんかで塾に行ってる子とそうでない子の差は出て来る。そこを受験で難しい高校を狙うと、良い所の塾へ行っている。

山本委員:英語に触れるなんて言うのは、結構ラジオの英語の授業はすごい良い。子ども達が聞いてくれると良いですけど。

教 育 長:歌から入ったっていう人もいます。台湾との交流については、今年も行われなかったのですが、来年また復活しようかという事で下見にも行きたいのですがそちらの方にかかっている時間がないですね。

高 木:高雄市の隣の屏東県というところの教育委員会の方と話をしておりまして、今年度可能であれば校長先生方を連れて来年度以降の交流事業をどうするかというのを打合せをしたいという事で話をしています。ただ、なかなか日程が上手く調整ができていない状況です。

鈴木委員:今年できなかったのは希望者がいなかったのか。

教 育 長:向こう側の都合です。

高 木:澎湖県は台湾本島から更に飛行機に乗らなければなりませんが、屏東県は本島ですので、少し余裕を持っての研修交流はできるかと思っています。

教 育 長:それでは次に、施設等の整備という事で9点ほど上げています。

高 木:これは今年度当初の工事関係です。台風被害による修繕がいくつか追加では出ておりますけれども、何か修繕関係で気になる事があればご意見をいただければと思います。

教 育 長:保育教育環境の整備、充実。7番の幼児教育アドバイザー共同設置という事で昨年度から始まりましたが、西伊豆町の場合には園が3つから2つになっていますので、その負担金の割合を下げるといような話をまだスタートしていません。これからして行きたいと考えています。それから、8番目の学校等再編専門員の配置という事で現在、齋藤良久先生がこの立場でやっています。

鈴木委員:幼児教育アドバイザーというのはどういうものか。

教 育 長:これは指導主事と同様に園を訪問して、園にアドバイスをいただいています。それから小学校との繋ぎについても様々なアドバイスをいただいているところです。

鈴木委員:保護者に対してじゃなくて、先生方に対する指導という事ですか。

教 育 長:はい、そうです。要請があれば保護者にも話をしてもらえるかと思っています。どの市町も園の先生は、その市町ですと過ごしていますので、外からの刺激があまりないので様々な事例を紹介していただけるだけでもずいぶんそれ

が良い刺激になっています。

鈴木委員:幼稚園で下田の方は、下田・南伊豆町で研修会を持っているのでそこで一緒にやったりして、自分たちも校長の時にアドバイザーで行ったことがあります。

教 育 長:次に高校生保護者支援及び松崎高校存続支援、ここで先ほど局長が言いかけた事があります。

高 木:通学費助成については、前に少し話をさせていただいたかと思いますが、現在松高が3分の1、その他が4分の1の助成という事ですが、松崎高校の利用率が非常に低いという事で特に仁科、田子の方たちが親御さんの送迎とか自転車通勤という事でバス利用が少なくなっています。その辺をもう少し手厚く支援しながら、松崎高校の存続の手助けになればという事で来年度に向けて見直しをしたいと思います。保護者の皆さまは学校を選択するのに、卒業後の進路実現が気になる場所かと思いますが、松崎高校の方にもやっぱり出口での学力保障にもしっかりと力を入れていただきたいという事での要請はしているところであります。給付型の奨学金につきましては、これも継続的に実施をしていきたいと考えております。今年度は5名の方に給付がされております。松崎高校へ行っても成績表の平均点で8.0をキープしないと奨学金が受けられなくなるという事もありますので、その辺は頑張っていたきながら松崎高校に来てもある程度の学力の保障ができるという事を証明していただくように頑張ってもらいたいなどは思っております。

教 育 長:この辺りはよろしいでしょうか。次に特色ある学校づくりの推進等で3点ほどあります。

高 木:これについては、町長の予算編成方針にもありましたけれども、学校ごとでもっと特色ある教育をしていくのであれば予算措置を手厚くしても良いというようなことでした。昨日、予算の編成方針について各学校の事務員そして校長先生方が集まって説明はさせていただいておりますが、それぞれが考えた特色ある学校運営のための予算を計上してくるのではないかと考えております。基本的にはこれは学校裁量予算ですので学校の意向を尊重したいと思っております。

教 育 長:本年度の賀茂中学校は小林さやかさんの講演です。

高 木:講演は本当に良かったみたいです。

鈴木委員:先生ではなくて、本人ですか。

高 木:本人です。去年の戦場カメラマンの渡辺陽一さんの時は一般来場者も多かったようです。

高 木:今までは賀茂中学校は情操教育に力を入れたいという事で、ここ2年間は講演会を重点事業として行ってきましたが、校長先生も変わられましたので、今度はどこに力を入れるのかは少し変わってくるのではないかとってはおります。

森本委員:Z会というのは、今、仁科小学校だけですか。

高 木:全ての小学校で実施しております。

森本委員:賀茂とかもですか。

高 木:やっております。

教 育 長:Z会については、今月末に長野県から視察に見えます。よく、効果はどうかと聞かれますけども、Z会だけの効果というのはなかなか取り出しにくいです。子どもは様々な刺激を受けて力をつけて来ています。

鈴木委員:長野から教育視察に来るのはすごい。私も 1 回長野に見に行ったけど、教育に力を入れている。

高 木:総務省のホームページを見て、西伊豆町の取り組みに興味を持ったという事です。

山本委員:この間、みんなで作ろう学校図書館講座というものに9月に行ってきたのですが、そこで言われたのが、富士などは学校図書館が充実していて、そこで講師の先生にイソベノブユキさんという先生が来て話したのがすごい印象的でこちらに書いてあると思うのですが、たとえば学校図書館の授業でこれをやると言ったら、それに関連して、たとえば環境をやっていると環境の本を図書館でやるという、そういう勉強は一切ダメ。何にもないところからどれを見ればその勉強ができるかというのが、調べるのが今の学校の勉強だと。なぜかと言うと、今までの言う勉強できる人を育てても、そんなの AI がみんなやってしまうからダメ。そうではなく、何かを調べるために何かを探していたらとんでもない事が見つかって、そこからそっちに行くなど、要はそういう人が必要。これをやるためにはこうしなさいと教えるのはもう絶対ダメだというような事を聞いて、そこが一番感じた。それと同じにやっぱりこういうのも先にこうだよと教えてはダメで、子どもが興味を持ちそうな、それをどうしたら良いかというのはすごい難しいのですが、それをすごい思いました。特色ある学校作りっていうところで。

鈴木委員:調べ方。そういうことは勉強する。今、子どもは確かにプリントで勉強している。

山本委員:だから図書館なんかでも、教科書でこういう環境のこういうことをやっているからそういう本を貸してくださいと言うのですが、それはダメだって。

教 育 長:学校図書館も静浦を参考にしており、静浦では各階に図書室があって、図書館司書が2人付いているようです。だから、調べ学習についてもとても恵まれたところですよ。うちが作る場合もバス通になるのでバスの待ち時間の時に、図書室の利用が増えれば良いと考えていますけれども、蔵書の数だとか、司書を揃えるにはちょっと厳しいかと考えています。

山本委員:今の話でちょっと、その講座へ行った時もそうなんですけど、たとえば新聞で話題になっている事を図書館に置いて、子どもがすごく興味を持つような事やいろんな事を他のいろんな方たちの発表でやっています。なので、ただ図書館に本を置けば、そうやって空き時間に子どもが来るかと言うと、来ないので子どもが来るような工夫、でもそれにはやはり時間と人数がいる。私たちも

西伊豆図書館でそんな子どもが来るようにと思うが、とてもそんな時間がない。でも、新しく出来たら学校がぜひちょっと工夫して。

高 木: 先ほど教育長もおっしゃってましたけども、静浦を参考にしながら、またこの機能が場合によっては向こうに移せるようなものもできないかなっていうのも考えてはいます。

鈴木委員: 松高の図書館の人が毎月1回来てもらって、玄関のところに紹介本とか図書館の中のレイアウトとかもやってもらおうと全然変わりましたね。やっぱり子どもも見てくれるようで少し若干だが、場所とそういう司書がいるというのはいいこと。

森本委員: 田子小でも、子ども達が紹介して感想を言って、みんなが興味を持つように言ってくれて、とてもいいと思って、賀茂小はやってるのか。そういう話を聞かなかったのですけど、すごい工夫してると思った。

高 木: 今度、広報の図書館便りで中学生のオススを掲載しましたが、そういう事で子ども達にも興味の持ってもらえるようにしていきたいと思います。

森本委員: 今の子はなかなか本を読まない。

教 育 長: 下の方になりますけども、社会教育関連事業5点上げておきました。

高 木: 社会教育関連では、山本委員さん何かありませんか。

山本委員: 町民ハイキングも前は皆勤賞いただくくらい行っていたのですが、色々な方がいるから難しい。普通のパンプスみたいなのを履いて来る人もいれば、登山靴を履いて来る人も一緒。

高 木: 山登りの時にパンプス履いてきた時はどうしようかと。本当に平坦なところを歩きたいという人と山を歩きたいという人といらっしゃいますので難しいです。

山本委員: せっかく、この環境は素晴らしいので、それで私たちが西伊豆の自然と親しむ会の方といろんなところへ行ってるのですが、本当に知らない方が沢山います。なので、なるべく身近なあまり遠くに行かなくても良い。

鈴木委員: わんぱくとか海洋クラブは町が単独。県は、今ないのか。

教 育 長: 県はビーチバレーボール大会。

鈴木委員: 県の事業で、カヤックで岩地から石部のところまで行くとかはよくやっていた。

山本委員: 下田はカヤックなどで年配の方も募集してます。

高 木: 足腰も鍛えられますが、海洋クラブのカヌーはシーカヤックと違って不安定で転覆しやすいので、難しいかと思います。民間でシーカヤックなどを教えていただけたところがあれば良いかなと思います。

教 育 長: 民間事業者ならやれるかも。

高 木: そうですね。シーカヤックも持ってます。

教 育 長: わんぱくクラブもやっていただいています。

鈴木委員: 田子小の体育館の裏に、カヤックが何隻か置いてあったけれども全然使われてなくてもったいないと思ってたんですけど。

高 木:田子小ですか。

鈴木委員:田子小の裏から体育館と駐車場の方に行く、プールのところ。

高 木:B&G のものですか。

鈴木委員:私がいた3年間は特に使っていなかった。

高 木:旧の西伊豆町でもやってましたので、そのカヌーかもしれません。もしかしたら、昔プールでやったのかもしれません。

眞野委員:今は特に見ない。

高 木:捨ててしまったのかもしれないです。今年度、田子小の子達が様々なスポーツの全国大会で優秀な成績を収めております。子どもの数が少なくても頑張れば出来るということを示してくれまして、他の子たちも良い刺激になったのではないかと思います。また、今年の市町対抗駅伝の西伊豆町は1列目でスタートしますので、最初テレビに映ると思います。是非応援してください。

教 育 長:最後、その他の事業という事でそこに2点ほど上げました。一通り見て意見をいただいたという事でよろしいですか。それでは、他に意見がないようですので、日程3の協議「令和2年度教育委員会関連事業について」を終了いたします。以上で本日の議事案件は終了いたしました。それでは令和元年度第7回の定例会を終了します。皆様お疲れ様でした。